

島津義弘の闘い

没後400年を迎えて



島津義弘像
(尚古集成館蔵)

第11回

歴史
作家

桐野作人講演会

SAKUJIN KIRINO

2019.10/1(火)

13:30~16:00 (13:00開場・休憩20分有)

会場/かごしま県民交流センター(県民ホール)

お問合せ/ **宝山ホール** (鹿児島県文化センター)
〒892-0816 鹿児島市山下町5番3号 ☎099-223-4221

入場無料

応募方法は
裏面参照

主催/公益財団法人鹿児島県文化振興財団
協力/株式会社島津興業(仙巖園・尚古集成館)
後援/鹿児島県・鹿児島市・霧島市・始良市・日置市・出水市・垂水市・湧水町
鹿児島県教育委員会・鹿児島市教育委員会・霧島市教育委員会
始良市教育委員会・日置市教育委員会・出水市教育委員会
垂水市教育委員会・湧水町教育委員会
南日本新聞社・NHK鹿児島放送局・MBC南日本放送
KTS鹿児島テレビ・KKB鹿児島放送・KYT鹿児島讀賣テレビ

島津義弘の闘い ～没後400年を迎えて～

今年、島津義弘公没後400年を迎えます。義弘は、関ヶ原合戦における「島津の退き口」でも知られ、戦国時代屈指の武将であり、その名は全国に知れ渡っていました。

島津四兄弟(長男・義久、三男・歳久、四男・家久)の次男であった義弘は、兄 義久を尊敬し、常に立てていましたが、島津氏が、1587年に九州まで出陣してきた豊臣秀吉に降伏し、秀吉が義弘を優遇したことにより、義久は豊臣政権と距離を置くようになりました。それに伴い2人の関係も豊臣政権に対して消極的な態度の義久と、積極的に携わる義弘と、違いがあらわれるようになり、それまで薩摩・大隅・日向の三カ国守護を兼ねた「太守」である義久の下に、一元化されていたものが分割されたことにより、島津氏全体の意志決定も遅れることになりました。また、秀吉の義久に対する扱いにより、義弘は、次第に島津家の中で孤立化することとなりました。更に義久の三女であり、義弘の姪にあたる亀寿は末娘だったこともあり、義久から大変可愛がられ、その存在は、その後の義弘の進路にも大きな影響を与えることになりました。亀寿は、島津家が豊臣政権に屈伏して以来、長期に渡る人質生活、島津家の家督継承をめぐる争いに巻き込まれ、薄幸の人生を送ることになりました。そして、豊臣政権五奉行の一人であり、政権と島津家との取次役だった石田三成も、亀寿と同じく義弘の行動に大きな影響を与え、特に関ヶ原の合戦においては義弘が西軍に付くことを決断させました。

島津義弘公没後400年を迎えるにあたり、武功際立つ猛将のイメージとは異なり、妻・家来を大切に、兄義久を最後まで敬い、他藩の武将からも一目置かれた島津義弘の波瀾万丈の生涯と、義弘に影響を与えた人物や出来事について紹介します。



歴史作家
桐野作人
(きりの さくじん)

1954年鹿児島県出水市生まれ。

歴史作家、武蔵野大学政治経済研究所客員研究員。歴史関係の出版社の編集長を経て独立。戦国織豊期や幕末維新史を中心に執筆・講演活動を行う。主な著書に『龍馬暗殺』『薩摩の密偵 桐野利秋』『さつま人国誌 幕末・明治編』1・2・3『さつま人国誌 戦国・近世編』1・2・3『関ヶ原 島津退き口』『島津義久』など著書多数。

2007年4月から2017年3月まで南日本新聞に「さつま人国誌」・2018年1月から2019年3月5日まで小説「曙の獅子」を連載。

申込方法

- ①メール(info@houzanhall.com)での申込み
(1メールで5名まで可)
- ②往復ハガキでの申込み(1枚で5名まで可)
- ③宝山ホール事務室にて招待券配布

募集人数

(要事前申込み・入場無料)
先着590名定員に達次第締め切りとなります。

《 往信：表 》

《 返信：裏 》

892-0816

鹿児島市山下町5-3
宝山ホール
「桐野作人講演会」係

(何も記入しない)

《 返信：表 》

《 往信：裏 》

□□□-□□□□

あなたのご住所
お名前

計
人

あなたのご住所、郵便番号
お名前、電話番号
(複数名申込みの場合、
代表者名と参加人数)